通所リハビリテーション管理者としての提案

和田里佳[1]・滝沢茂男[2]
[1]立花整形外科通所リハビリ事業所、[2]バイオフィリア研究所

今回の講演で、筆者が2003年7月に開所した立花通所リハビリテーション事業所の所長として就任して以来の経験を踏まえ、その経験を振り返ってひとつの提案をさせていただきます。

これまで、国立療養所箱根病院附属リハビリテーション学院の卒業以来、理学療法士として勤務してきました。

施設ではタキザワ式プログラムを導入するとともに、理学療法士として他動運動による関節可動域訓練を行いました。

通所リハビリテーション（リハビリ）事業所の立ち上げまで、老健施設、長期療養型病院、訪問看護ステーションと立花整形外科の外来など施設で、非常勤理学療法士として勤務し、患者さんに心を込めて治療をしてきました。

高齢要介護者の特徴や、介護者や利用者さんの心理的な負担に注意して、リハビリに求められていることやデメリットに注意を払い、施設を運営してきました。

多くの利用者さんから喜ばれてきたと自負しています。　また、その内容は、幸い多くの研究費を得て、多くの研究[1),2).3),4),5),6),7)]を行い、当施設の状況を明らかにしてきました。

利用者さんの関節可動域訓練は他動運動で行うことが多く、理学療法士の他動運動は身体の麻痺による痙縮や関節痛で動きの悪くなった関節や筋肉のコンディションを整えていますがそれにはマンパワーと時間がかかります。

近年ではロボットを始め、色々な機械が出ていますがセッティングに時間がかかり多くの人に対応できない欠点があります。

筆者は実際にタキザワプログラムとともに実施してきたのですが、今日卒業以来多くの年月を経て、わたし自身の体力的な問題から個別に行う理学療法と運動の限界を感じているところがあります。

こうした経験から、可能であれば理学療法士の個別訓練に変わる運動器を是非ともどこかで開発してもらいたいと考えています。

それを用いることによって理学療法士の肉体的な労力を若干でも減らし、タキザワプログラムの導入と、その管理によって多数の患者さんに有効な個別理学療法を実施できればと考えています。

それによりリーズナブルに多くの人が自立した生活が送れるシステムになると確信しています。

団塊世代は一学年で200万人以上生存していると聞きます。

そしておそらく現在75-73歳ぐらいの団塊世代は八十歳になっても人数を減らずに介護が必要とする高齢者になるのではないかと危惧しています。

言い換えると年毎に約200万人の新しい介護や理学療法が必要な患者さん・障害を持つ又は虚弱な者高齢者が増えたら、今と同等の介護や治療を実施することはできないと考えています。

筆者はタキザワプログラムが介護や理学療法が必要な患者さん・障害を持つ又は虚弱な者高齢者に対し有効な方法であると考え研究を続けてきました。

そして、是非とも、彼らの自立した身体機能を取り戻し維持するための医療機器が広く提供されることを期待してやみません。

その事によってのみこれから増加する団塊世代高齢者の身体を健康に保ち、少ない介護で暮らしていけるような社会にできるのではないかと考えています。
これまでの経験を踏まえて理学療法士としての夢が現実になることを祈念しています。

参考文献

1). 和田 里佳，創動運動によるリハビリテーション医療を併用した通所リハビリ事業所でのプログラムの実際の紹介，バイオフィリア リハビリテーション学会研究大会予稿集 2018年，https://doi.org/10.14911/biophilia.2018.0_10
2). Rika Wada, Shigeo Takizawa, Implementation of rehabilitation Service in the Outpatient Facility, BIOPHILIA 2017m, DOI https://doi.org/10.14813/ibra.2017.90
3). Rika Wada, To Establish the Rehabilitation Medical Treatment by the Motivative Exercise from Physiotherapist's Point of View, Who Works at the Day care and Outpatient Rehabilitation Service Facility, BIOPHILIA 2017, https://doi.org/10.14813/ibra.2017.71
4). 和田 里佳，創動運動によるリハビリテーション医療確立に向けて 介護保険の現場で働く理学療法士からの立場から，バイオフィリア リハビリテーション学会研究大会予稿集 2017年，https://doi.org/10.14911/biophilia.2017.0_5
5). 和田 里佳，滝沢 茂男通所リハでの長期フォローにより機能改善された２症例の報告，バイオフィリア　リハビリテーション学会研究大会予稿集 2006年，https://doi.org/10.14911/biophilia.2006.0.15.0
6).和田 里佳，立花 敏弘，滝沢 茂男，牛澤 賢二,当施設における通所リハビリテーション実施と維持効果について,バイオフィリア　リハビリテーション学会研究大会予稿集 2014年，https://doi.org/10.14911/biophilia.2014.0_9
7).和田 里佳，立花 敏弘，滝沢 茂男，武藤 佳恭，創動運動長期実施の効果の検証とｆNIRSの脳活動評価 第１報，バイオフィリア リハビリテーション学会研究大会予稿集 2010，https://doi.org/10.14911/biophilia.2010.0.38.0